

六甲山と甲山が見える「景勝の駅」

増山雄三

先日、所用で大阪へ出かけたとき、いつもはJRの須磨駅から快速に乗るが、少し時間があつたので、各駅停車の普通にのつていくと、西宮駅と芦屋駅の間に、新しい駅ができている、それが「さくら夙川」という、この地にふさわしい洒落た名前がついている。

折角なので、この駅で途中下車し、しばらく駅のベンチに座っていると、播州赤穂行き
の快速が近づいてくると、須磨海浜公園駅で
聞いた、同じ接近メロディーが鳴り、そのあと
轟音を響かせ通り過ぎて行った。

あとで駅の改札にいた駅員に聞くと、十年前までは、コブクロの「桜」のサビの部分をアレンジしたものが使われていたが、年間数百万円という著作権料の支払いが負担になつて、JR神戸線接近標準メロディーの「さざな

み」に変更されたという。

更に、この駅員の話によれば、この駅は、地元の自治体からの働きかけで設置される請願駅ではなく、駅の真下を通る県道が拡幅工事をしている、駅新設工事は「県道拡幅工事の付帯事業」と見なされ、国から補助金が出る事で、JR西日本が、地元の西宮市に駅新設を働きかけ、設置が決まったという。

それで、肝心の駅名については、「さくら夙川」に決まる前には、近隣にある大学の識者からは、えびす宮総本社の西宮神社が近くにある事と、十日戎や初詣に刃乗降客も多いので、「戎前」という候補も挙げられたが、最終的には、この名前になったという。

そんな経緯で出来上がった新駅の駅舎は、複雑線の八両編成対応の、島式ホーム一面二線が設置されている高架駅で、改札口は南側に一箇所設置され、エレベーターと上りエスカレーターが設置されているホームは、ゆったりとした感じになっている。

また、駅舎のデザインについては、「自然のうるおいを感じられる駅」を基本コンセプトにし、夙川の流れを波状の屋根で、夙川公園の桜を駅舎の壁のイメージカラーとする事を、表現しているとも説明してくれた。

開業したのは、平成十九年三月十八日で、南側は交通量の多い国道二号線の神楽町交差点があり、北側は静かな住宅地で、一戸建て住宅や低層マンションが並び、ホームの上からは、六甲の山並みが見渡せるし、甲山の丸い山容も見ることが出来る「景勝の駅」だ。

さらに、駅の二百米ほど西にある、桜と松の並木道が続く夙川河川敷緑地は、春は花見の客で賑わう名所になっていて、西宮神社へは、南東に歩いて八分の所にある。

それに、利便性もあって、駅が開業した当初から、阪急バスと阪神バスのバス停留所ができる、阪急夙川駅方面の北行きは、JRの高架下にある、阪神西宮駅方面の南行きは、大沢西宮線を数十米北に進んだ所にある。

日中の時間帯には一時間に八本も停車し、朝のラッシュ時には運行本数も増えるので、昨年度の一日平均乗車人員も八千二百人を超え、今や、この駅を利用する大手前大学や、甲陽学院の生徒達の貴重な駅になっている。

令和三年一月